



都路

小さな学校・大きな家族

未来を創る人間性豊かな都路っ子の育成

みずから進んで学ぶ子ども

やさしく思いやりのある子ども

こん気強くやりぬく子ども

じぶんのよさに自信を持ち、さらに伸びようとする心

令和5年9月26日(火) 発行責任者 校長 國分 洋

「全国・県学力調査」結果と考察について

朝夕、めっきり涼しくなり、秋の気配が近づいてまいりました。

学校では、今週末に運動会を控え、「スポーツの秋」真っ盛りであります、

夏休み明けに届きました「全国・県」両学力調査の結果を踏まえ、「勉学の秋」となるよう授業改善と家庭学習の充実に努めてまいります。「結果と考察」をお知らせいたしますので、ご家庭でもご覧いただき、家庭学習の充実のために参考にしていただきたくお願いいたします。

都路小HP (R5.9.26現在)

訪問者 650, 500人

アドレス 都路小 検索

都路っ子の活動をほぼ毎日更新中!



<令和5年度「全国学力学習状況調査」結果と考察>



◇ 対象：6学年 令和5年4月18日実施

◇ 各教科とも出題範囲は1～5年の学習内容 ◇ 児童質問紙は、学び方や生活習慣等についての内容

<国語科>【平均正答率：本校62% 県67% 全国67.2%】

正答率の高かった設問は、「話すこと・聞くことの領域」であり、必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える力が、県・全国平均ともに上回ることができた。

課題が見られた設問は、「書くことの領域」である。図表やグラフから分かる問題点及び解決方法など、複数の情報を結びつけて書き表すことに課題がある。図表やグラフから情報を収集し、読み解き、適切な情報を選び、根拠を明らかにして、相手に考えが伝わるような表現ができるよう、指導の工夫が必要である。

県教委「授業スタンダード」の「追究・解決」活動における「ペアやグループ・学級全体での話し合い」で、「理由や根拠を基に判断する場の設定」をし、友達との交流を通して、考えを共有・吟味していくことをポイントに授業改善していかなければならない。

◇ 着実に「読む力・書く力」を伸ばしているが、論理的思考（筋道を立てた考え方）に基づく文章表現力の向上が課題

<算数科>【平均正答率：本校61% 県61% 全国62.5%】

正答率の高かった設問は、「数と計算の領域」である。乗法や分配法則を用いての計算、求め方と答え方を式や言葉を用いて記述したり、表から必要な数を読み取ったりすることができていた児童の割合が県平均を上回ることができた。

課題が見られた設問は「図形領域」である。多角形の名前は答えられているが、図形の特徴が述べられていなかったり、作業を通して正多角形の内角を求めたりする問題、さらに、辺と面積の関係を基に面積の大小を比べ、言葉や数を用いて説明する問題で課題が見られた。多角形の図形の意味や性質について理解するだけでなく、辺と面積の関係について言葉や数を用いて説明表現できるよう、指導の工夫が必要がある。

国語科同様、県教委「授業スタンダード」の「追究・解決」活動における「ペアやグループ・学級全体での話し合い」で、数学的な見方・考え方に基づく「学級全体での話し合い」により、「深い学び」となるよう授業改善していかなければならない。

◇ 計算力や割合領域は確実に定着向上。図形領域における柔軟な考え方と説明力（思考表現）が課題。

<児童質問紙より>

国語科、算数科とも、あまり好きではないが、勉強は大切だと思うと回答する児童が多かった。その意識の高まりからか、「全ての問題で最後まで解答しようと努力した」と回答した児童がほとんどであった。理由や求め方などを書く問題にも粘り強く取り組むことができることが分かる。授業改善を図ることで、さらに根拠を明確にした文章を書くことができるのではないかと考える。また「授業で学んだことを他の学習に生かしている」や「総合的な学習の時間に自分で課題を立て、情報を集め、整理し、調べたことを発表することを積極的に行っている」という肯定的な回答も県平均を上回る結果であった。

英語についての質問では、英語の学習が大切だと思っている児童がほとんどである。外国人と話したり自分の町を紹介したりしたいと思っている反面、学校以外で英語を使う場面がなかなかないと答えている児童も多かった。英語の授業における「必然性（必要感）」を意識できるような手立ての工夫と授業改善に努めていく。

◇ 学びに向かう前向きな姿勢が育っている。授業に生きる家庭学習（予習復習）の習慣化を図る。

<考察>

◇ 少人数教育のよさを生かし、個別指導の充実に努め、充実感や達成感が得られる「分かる、できる」授業づくりに向けて、「中学校教員とのTT指導」「市販ミニム授業スタイル」「県教委指導主事招聘授業づくり支援訪問」等、その連携活用の強化を図る。またICT機器やタブレット端末の効果的な活用について実践研究を深めていかなければならない。教科書拡大掲示や個人の調べ学習、ドリル学習のためのタブレット端末活用ばかりでなく、課題領域の学力向上に向けた具体的な指導のための教師側のICT機器による教材研究開発等にも力を入れる。

◇ 家庭学習の充実のために、自校版「家庭学習の進め方ガイド（各学年）」の活用と改善を図る等、授業と連動した家庭学習内容例の提示や自己マネジメント力の育成のための家庭学習スケジュールの作成支援に努めていく。

＜令和5年度「ふくしま学力調査」結果と考察＞



- ◇ 対象：4、5、6学年 計21名 令和5年5月11日実施
- ◇ 一人一人の学力がどれだけ伸びているか、学習がどれだけ身に付いているかを診る県独自の調査
- ◇ 各教科とも出題範囲は、前学年までの学習内容 ◇ 質問調査は、学び方や生活習慣等についての内容

4年	国 語	算 数
学力の伸び	4年生は今年度が、「初回調査」のため、次年度以降、学力の伸びが診断できます。	
国語・算数 成果 (○) 県市平均を上回った設問 課題 (●) 県市平均を下回った設問	○音訓二通りの読み方がある熟語が読める。 ○語句の性質を理解し、気持ちを表す言葉を選ぶ。 ○指示語の役割を理解し、内容を抜き出す。 ○接続語の働きを理解し、適切に選択する。 ○登場人物の行動から大事な言葉を読み取る。 ●ローマ字表記を正しく読む。 ●同音異字の漢字を文脈に即して正しく使う。 ●文の構成を理解し、主語・述語を選択する。 ●必要な情報を捉え、書き留める。	○かけ算を使う文章問題を解く。 ○未知の数を□を用いて、数量の関係を図に表す。 ○等分してできる大きさを、分数を用いて表す。 ○円の半径、直径について理解している。 ○長さを測定する計器の読み方を理解している。 ○棒グラフを正しく読み取る。 ○表と棒グラフから大きさを正しく読み取る。 ●正三角形の性質を理解している。 ●時刻表の見方、時刻の求め方を考える。
児童質問調査 主な 強み (○) 課題 (●)	○勉強する理由について「楽しいから」「将来役に立つから」という意識が高い。 ○粘り強く考えたり、見直したり、確かめたりできるという意識が高い。 ○地域の歴史、自然に関心を持っている。 ●難しい問題にチャレンジしたり、計画を立てて勉強したりすることがなかなかできない傾向がある。 ●話し合うことや意見や考えを出し合うことに苦手意識を持っている。	
5年	国 語	算 数
R4.からの学力の伸び	ご家庭に配付された個票をご覧ください。	
国語・算数 成果 (○) 県市平均を上回った設問 課題 (●) 県市平均を下回った設問	○同音異字の漢字を文脈に即して正しく使う。 ○呼応の副詞や慣用句の意味を理解し、適切に使う。 ○指示語の役割を理解している。 ○文の構成を理解し、適切な形に修正する。 ○要点を理解しながら発表を聞き、欠けている内容を質問する。 ●熟語の漢字を正しく読む。ことわざの意味を理解し、適切に使う。 ●漢字辞典の使い方を理解している。 ●登場人物の言動から物語の内容を読み取る。 ●考えを伝えるときに必要な事例を挙げて説明する。	○3位数と2位数の除法や同分母の分数の除法ができる。 ○億の単位について理解している。 ○数量の関係を、割合をもとに比較することができる。 ○伴って変わる二つの数量の表から関係を見出し、問題解決できる。 ●小数に整数をかける乗法計算ができる。 ●四捨五入した整数から、四捨五入する前の整数を求める。 ●三角定規の性質を基に角度を求める。 ●直方体の頂点等、空間の3要素で表す位置を把握する。 ●伴って変わる二つの数量関係を、記号を用いて式に表す。
児童質問調査 主な 強み (○) 課題 (●)	○夢や目標に向かって学習する意識が高く、既習事項を生かし、関連付けて勉強することができる。 ○学習や生活の中で、粘り強く考えたり、失敗を乗り越えて頑張ろうとしたりする意識が高い。 ○地域の歴史、自然に関心を持っている。 ●難しい問題にチャレンジしたり、計画を立てて勉強したりすることがなかなかできない傾向がある。 ●あいさつができなかったり、話し合うことや意見や考えを出し合うことに苦手意識を持っていたりする。	
6年	国 語	算 数
R4.からの学力の伸び	ご家庭に配付された個票をご覧ください。	
国語・算数 成果 (○) 県市平均を上回った設問 課題 (●) 県市平均を下回った設問	○同音異字の漢字を文脈に即して正しく使う。 ○多義語について異なる意味を正しく理解している。 ○呼応の副詞や修飾・被修飾の関係を理解している。 ○原因や結果の関係や文章の構造や内容を理解している。 ●慣用句の意味を理解し、適切に使う。 ●登場人物の心情や性格を物語から読み取る。 ●場面に着目し、物語の内容を正しく捉える。 ●伝えたいことが伝わるように資料の使い方を工夫する。	○加法と乗法の混合した整数・小数の計算が正しくできる。 ○最小公倍数の意味を理解している。 ○比較量の求め方「基準量×割合」を理解している。 ○円柱や三角柱の展開図の位置関係を正しく理解している。 ○三角形の底辺と面積、高さの関係の規則性を考える。 ●割合の求め方や速さの意味について正しく理解している。 ●全体と部分の関係を百分率を用いて表すことができる。 ●円グラフの見方が分かり、複数の帯グラフを正しく読み取る。
児童質問調査 主な 強み (○) 課題 (●)	○分からないところは先生に聞く習慣や意識がしっかりと身についている。 ○良い成績をあげるために頑張ったり、授業の学びを生活に生かそうとしたりする意識が高い。 ○家庭のルールを守って、ゲームをしたり、インターネットを利用したりしている。 ●難しい問題にチャレンジしたり、計画を立てて勉強したり、見直したり繰り返したりすることがなかなかできない傾向がある。 ●友達にやさしく接したり、親切にしたり、助けてあげたりすることがなかなかできない傾向にある。 ●話し合うことや意見や考えを出し合うことに苦手意識を持っている。	